

鷹山公没後200年記念

鷹山公の改革が
目指したもの

— 富国安民の政治とは —

講演

『上杉鷹山の改革を支えた人々』

— 「富国安民」の政治を担った実務者たち —

講師 小関 悠一郎 氏 (千葉大学教育学部准教授)

郷土出身(南陽市・梨郷)、興讓館高校卒の気鋭の「鷹山研究第一人者」が、鷹山公の目指した藩政改革から「仁政」とは何かを、郷土の皆さんに再び問いかけます!

今年は鷹山公没201年ですが、200年記念として行わせていただきます。

講師は、平成27年の鷹山公シンポジウムでお招きした千葉大学の小関悠一郎先生です。今回は、〈明君〉鷹山公が問いかける政治理念とは、ということで、新しい視点の鷹山公像を教えてくださいました。今回は、米沢藩の藩政改革への取り組み論から実務を担った人々も含め、鷹山公が藩政改革で目指したものを教えてくださいます。

*2021年に出版された『上杉鷹山—「富国安民」の政治—』は大評判で、NHKの「英雄たちの選択」などの諸番組にも出演されました。

*米沢市上杉博物館・鷹山シアターの「上杉鷹山 ふたたびの改革」も先生の監修です。

上杉鷹山公肖像画：米沢市上杉博物館所蔵

日
時
会
場

令和5年 8月27日(日)

午後1:00開場 午後1:30開会～午後3:30閉会

伝国の杜 置賜文化ホール

・入場無料
・事前申し込み不要

主催／上杉鷹山公と郷土の先人を顕彰する会 お問い合わせ：090-2027-4572 (担当：高橋)

協賛／米沢四季のまつり委員会

共催／米沢市教育委員会・上杉鷹山公NHK大河ドラマ化をすすめる会

後援／米沢市歴史団体連絡協議会・米沢市芸術文化協会

鷹山公シンポジウム

第32回

鷹山公シンポジウム

講演要旨



講師

千葉大学教育学部准教授

小関 悠一郎 氏

第9代米沢藩主・上杉治憲（鷹山）は、その魅力的な人柄や指導力によって、様々な課題を乗り越え藩の行財政改革を遂行した「明君」（名君）と評される人物です。竹俣当綱や荻戸善政、細井平洲といったブレーンに支えられて行われた改革政治は、すでに江戸時代から全国的に知られ、現在に至るまで関心を集め続けています。

そうしたなかで近年、米沢藩政改革への関心は、鷹山や周囲のブレーンにとどまらず、さまざまな形で改革に関与した家臣や領民、さらに藩内外の金主にまで及ぶようになってきました。いっそう深く、豊かに改革の実態を描き出し、理解するための条件が整いつつあるのです。

いったい、当時どのような人々が、いかなる取り組みを行って、鷹山の改革を支えたのでしょうか。そして彼らの取り組みの上に成り立つ鷹山の改革は、日本史上に何をもたらしたのでしょうか？ 今回のシンポジウムでは、郷村出役や役所役など、改革を現場で支えた人々に注目します。改革の主要政策を担った彼らの実像を通して、鷹山の政治（さらには江戸時代の政治）がなにを目指したものだったのか、「富国」・「仁政」をキーワードに読み解きます。

経
歴

1977年（昭和52年）宮城県仙台市生まれ。

米沢興譲館高校から一橋大学社会学部に進学。一橋大学大学院社会学研究科修士課程・博士後期課程修了。日本学術振興会特別研究員PD（東北大学）などを経て、現在、千葉大学教育学部准教授。

研究分野

専門は日本近世史。上杉鷹山・竹俣当綱らによる米沢藩政改革の研究を起点に、「仁政」や「富国」といった政治理念に着目して、幕末維新时期にかけての政治史・思想史の研究を行っている。また、「資料ネット」の活動を通して歴史資料の保存に取り組んでいる。

著
書

- ・『〈明君〉の近世—学問・知識と藩政改革』（吉川弘文館 2012年）
- ・『〈人のあるく〉上杉鷹山と米沢』（吉川弘文館 2016年）
- ・『上杉鷹山—「富国安民」の政治』（岩波書店 2021年）

*その他の著作（資料保存関係）や監修内容、テレビ出演関係は、シンポジウムの当日資料に掲載いたします。